

三番町閑話

28

今年の大河ドラマ「真田丸」の舞台、信州が私の故郷だと長年思っていた。それが数カ月前、長野の本家からの一通の手紙により思わぬことが判明した。

蔵の整理をしたところ、古文書・書付の類が出てきて、元々は京都山城が拠点で、名前も加茂だったという。

794年、桓武天皇が長岡から山城に都を遷す際に、今でいうインフラ整備が必要であった。治水土木事業の技術を持っていた、豪族の加茂氏・秦氏が、鴨川の自然河川を人為的にコントロールすることで京都千年

ルーツ

の都の礎を築くのに貢献したという。

そんな加茂一族にどのような運命が立ちほだかったのか、戦国時代、京都を離れることになった。行き着いた先は、現在の長野県上山田市、山間の重なる信濃更級郡上山田であった。この地で加茂から宮本と改姓。当時治めていた勇将村上義清の為、先祖は上山田村の郷主として参戦し、活躍。恩賞に土地を与えられたとある。武田・真田vs上杉・村上、城を奪ったり奪還したり、そして川中島の戦いへ。時は流れる。

以来、現在に至るまで約500年。本家宮本は16代。第二の故郷や先祖の足跡に思いを馳せて見るドラマは又、ひと味違う。

税理士 宮本 雄司 (日本税理士会
連合会 理事)